

令和6年能登半島地震における 港湾の対応状況について

令和6年1月31日
国土交通省 港湾局

令和6年能登半島地震による港湾の被害の概要(代行管理する能登地域6港を除く)

■ 北陸地方の29港のうち、22港で被害が発生。



○△ 管理の一部を代行している港湾
 ■ 国際拠点港湾
 ● 重要港湾
 ● 地方港湾
 ▲ 避難港 港名 被害あり

× 震央
 ■ 震度7
 ■ 震度6強
 ■ 震度6弱
 ■ 震度5強
 ■ 震度5弱
 ■ 震度4



- 能登地域の港湾では、港湾全体に被害が及んでおり、石川県からの要請に基づき、七尾港、輪島港、飯田港、小木港、宇出津港、穴水港の計6港について、**港湾施設の一部管理を国土交通省にて実施**(1月2日～)。
- 代行管理の実施内容は、「施設の点検・利用可否判断」「応急復旧」「岸壁の利用調整」など。

輪島港(管理者:石川県)

約2m

岸壁背後の沈下

岸壁背後の沈下

○△ 管理の一部を代行している港湾
● 重要港湾
● 地方港湾
▲ 避難港

飯田港(管理者:石川県)

防波堤の損壊

宇出津港(管理者:石川県)

約30cm

岸壁背後の沈下

飯田港(管理者:石川県)

岸壁の変位

穴水港(管理者:石川県)

岸壁の破壊

七尾港(管理者:石川県)

岸壁の沈下

岸壁背後の液状化

小木港(管理者:石川県)

約1m

岸壁背後の沈下

- 5日までに、**水深4.5m以深の9岸壁が利用可能**であることを確認(条件付きで利用可能なものを含む)。
- 9岸壁の応急復旧を進めながら、被災地に**支援物資を輸送する官民の船舶の利用調整を実施**。

輪島港
(最大水深7.5m、延長220m)
1岸壁中1岸壁が利用可能
(条件付き)



応急復旧の概成状況(5日)



フェリーによる支援状況(10日)

宇出津港 (最大水深4.0m、延長205m)
水深4.0m : 利用可能

穴水港 (最大水深4.0m、延長187m)
水深4.0m : 利用可能

七尾港 (最大水深11.0m、延長260m)
8岸壁中3岸壁が利用可能 (条件付き)
水深11.0m岸壁
水深9.0m岸壁、水深7.5m岸壁

海翔丸による支援物資の積卸し(5日;水深7.5m岸壁)



○△ 管理の一部を代行している港湾
■ 国際拠点港湾
● 重要港湾
● 地方港湾
▲ 避難港

飯田港 (最大水深5.5m、延長100m)
2岸壁中1岸壁が利用可 (条件付き)
水深4.5m岸壁

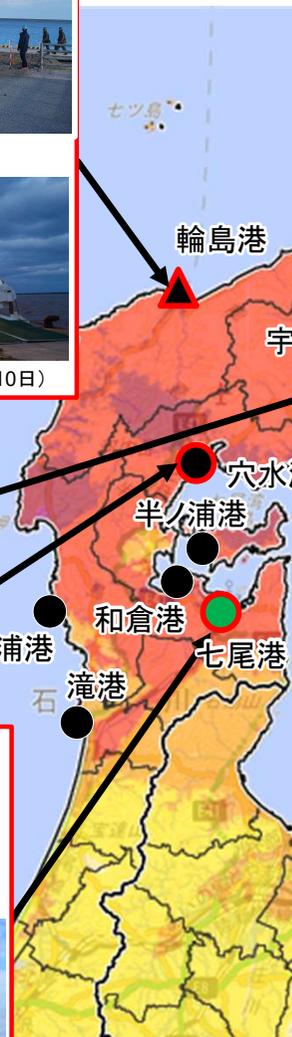


応急復旧の完了状況(9日)



水深4.5m岸壁への着岸状況(11日)

小木港 (最大水深5.0m、延長160m)
5岸壁中4岸壁が利用可能 (一部条件付き)
水深4.5m岸壁 × 4



国が管理代行している港湾の利用状況(令和6年1月30日現在)

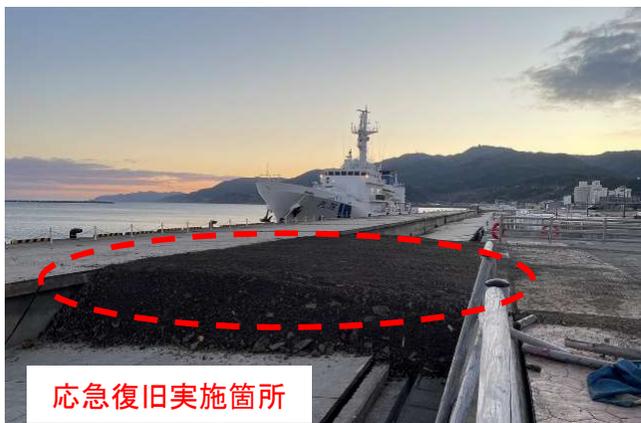
港湾	施設	水深	延長	~1/23 (火)	1/24 (水)	1/25 (木)	1/26 (金)	1/27 (土)	1/28 (日)	1/29 (月)	1/30 (火)	
輪島港	マリンタウン	-7.5m 【実質 -5.5m】	200m	- 1/4 調査完了 - 1/4 第一船入船							第18松前丸 (埋没)	
飯田港		-4.5m 【実質 -3.5m】	210m (北側) 90m (南側)	- 1/4 調査完了 - 1/5 第一船入船								
七尾港	矢田新(第二東)	-9m	165m	- 1/5 調査完了 - 1/7 第一船入船	海務 のと だいせん	さど だいせん	まつしま さど	まつしま だいせん		みづら	まつしま やむこ	
	矢田新(第一西)	-7.5m	220m	- 1/3 調査完了 - 1/3 第一船入船	ナッチャンWorld (防衛省)							
	大田3号	-11m	260m	- 1/4 第一船入船 - 1/5 調査完了	はくおう (防衛省)							
	矢田新物揚場	-4m		- 1/8 調査完了 - 1/13 第一船入船								

※このほか、海上自衛隊の護衛艦せんたい・おおよどが、陸路入りした災害対応部隊員の後方支援を実施している。

- 能登地域の港湾においては、岸壁背後の沈下や液状化により、多数の岸壁で車両によるアクセスが困難となった。
- 支援物資輸送の中核となる岸壁への車両アクセスを確保するため、応急復旧を実施することで、支援物資の円滑な輸送等に貢献している。

輪島港（輪島市）

岸壁背後に最大2mの沈下が発生。応急復旧により車両のアクセスを確保（5日）。



応急復旧後の状況（水深7.5m岸壁）



自衛隊車両の利用（5日）

飯田港（珠洲市）

岸壁背後にうねりが発生。応急復旧により、車両のアクセスを確保（9日）。



応急復旧後の状況（水深4.5m岸壁）



民間2船（RORO船等）の利用（11日）

七尾港（七尾市）

液状化により車両の通行が困難であったところ、応急復旧により車両の走行路を確保（12日）。



応急復旧の状況（水深11m岸壁）



「はくおう」による休養施設の提供（水深11m岸壁）

■ 発災直後より、各地方整備局や研究所のリソースを活かし、TEC-FORCE隊員の派遣やプッシュ型支援による物資等の輸送について、精力的に実施している。

TEC-FORCE隊員の活躍

2日以降、のべ488人・日（29日時点）が、TEC-FORCEとして、現地の被災状況把握や自治体へのリエゾン等に従事。



近畿地整・国総研・港空研TEC-FORCEによる施設点検・調査（8日）



中部地整TEC-FORCEによる支援物資の輸送（3日）

海翔丸による支援物資輸送

九州地整の所有する作業船「海翔丸」が3日に北九州港を出港、5日に七尾港に着岸し、飲料水等の物資を輸送。



海翔丸（九州地整所有）



七尾港での支援物資の荷下ろし（5日）

防災拠点の備蓄資材派遣

堺泉北港の基幹的広域防災拠点の備蓄資材である投光器付き発電機を、プッシュ型支援で現地へ派遣し、夜間作業の効率化に貢献している。



海上保安庁の給水支援での使用状況



TEC-FORCE隊員による七尾港の港湾管理業務での使用状況